

「新たな改革を」



お蔭様で昨年は吉備学園創立100周年記念式典を挙行了し、創設理念を再確認いたし、明日の社会を築く有為な人材育成に邁進しなければならぬと改めて気持ちを引き締めているところで

ところで、昨今の時の流れとその変化は著しく、我々もまたそれに対応して行かなければなりません。正月早々に飛び込んできたニュースは、小学生に英語とダンスを正規科目として取り入れるというニュースでした。

時代は絶えず新しいものを求め、それが社会の進展を支えていることは言うまでもないことです。一昔前、社員教育は独自行うという企業姿勢も、いまでは即戦力が求められ、したがって、大学も大きくその教育姿勢に変革が求められています。我々はその要望を真摯に受け留めて対応してゆかなければなりません。

大学への進学者が10%にも満たない時代では、大学を卒業すればエリートとして受け入れられました。しかし、いまでは高卒者の50%を超える学生が大学へ進学するユニバーサル化社会が台頭しており、それに伴い変革を進めているものの、いまだ十分な対応が出来ていません。社会からの期待が変化しているにもかかわらず、また、学生の質の変化が見られるにもかかわらず、多かれ少なかれ金太郎飴の風合いを持つ日本の大学は、早急な改革が求められています。

本学のように地方の小さな私学では、優秀な教員を迎える上では国立大学で研究した教員を迎えざるを得ません。大学教員は教育実習がありませんので、勢い教えられたように教えるという姿勢を払拭しきれず、私立大学ですら、とかく殿様商売的な姿勢を払拭し切れていないのが実情です。この問題を捉え、

中教審議会は機能分化を提唱し、東京大学スタイル一辺倒ではなく、各大学はポジショニングを考え、十分な使命を果たすべきであることを示しています。また、世界の中の日本、我が国の高等教育はいかにあるべきかについて今日ではグローバルバリエーションという大きな問題を抱えており、ご存知のとおり秋入学の問題もその一つにあがっており、社会の変化は、めまぐるしいものがあるだけに、いまや本大学も迅速な対応が望まれます。

我々はこれまでの姿勢を改めて一歩踏み出す勇気を持たなければなりません。座学を中心とする姿勢からフィールドワークを取り入れ、学ぶ視点と学ぶ意義をこのフィールドワークの中に見出すのも一つの方策であろうし、海外の教育機関に出向き、新たな刺激を得るのも従来の教学体制に斬新な空気を取り込むことが出来るのではないかと考えます。まず自分の殻を破ることで新たな世界の発見と挑戦の年としたいものです。皆さんの英知とご支援を期待します。



平成23年11月11日 岡山商科大学附属高等学校 創立100周年記念式

CONTENTS

〈商大トピック〉

●東日本ボランティア ●トマト銀行提携記念セミナーの開催 ●学内に花を咲かせよう

〈アジアレポート〉

●孔子学院便り ●「後樂園」と「岡山城」の見学

〈キャリアセンター便り〉

●2013年春卒業生就職戦線スタート! ●地学地就バスツアー開催 ●学内合同企業説明会開催

商大 トピック

Topic 1

前期学位記授与式

9月14日(水)、前期学位記授与式が本館大会議室で挙行されました。学部では商学部商学科8名、法学部法学科1名、経済学部経済学科1名の10名に、大学院では商学研究科7名、法学研究科2名、経済学研究科1名の10名に、それぞれ井尻学長から学位記が授与され、思い出多き学び舎を後にしました。皆様の今後のご活躍を心からお祈りいたします。(総務企画課)



Topic 2

保護者懇談会

2011年度保護者懇談会を9月11日(日)の本学会会を皮切りに、中四国9会場で開催し、200名以上の方に参加いただきました。個別面談を中心に、学生支援の説明や就職内者を迎えての座談会(本学会場のみ)などを行い、充実した時間を共有することができました。ご来場いただいた皆様にこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。来年度は今回の経験を踏まえてより充実した会にしたいと考えておりますので、今回足を運ばれた方も、そうでない方も会場までお越しいただくことを願っております。(総務企画課)



Topic 3

東日本大震災学生ボランティア

学生会では、東日本大震災被災地の復興を支援するため、8月に3回それぞれ5日間にわたって、学生ボランティア(7名)を派遣しました。岡山県社会福祉協議会と(社)岡山経済同友会の呼びかけに応じたもので、被災地では、津波で被害を受けた墓地の整備や「菜の花プロジェクト」に参画しました。参加した学生からは、「現地の方々に元気を与えようと思っていたが、逆に元気をもらった。今



後もこの出来事を忘れずに復興に向け、機会があればボランティア活動に参加したい。」という声が寄せられました。

被災地の復興には、継続した支援活動が必要不可欠であり、また、学生にとっても震災復興に携わることで今後の生き方や働き方を考える機会にしてほしいとの願いから、今後も学生ボランティア活動を支援することとしています。

(学生課)

Topic 4

商業教育についての意見交換会

平成23年8月22日(月)に県内商業高校の校長先生を招き、商業教育についての意見交換会を開催しました。会には県内8つの商業高校から参加があり、就職活動状況や高大一貫教育の必要性などについて活発な議論が行われました。大学からは学長、副学長、学部長を始め、若手の教員、教務担当職員なども参加し、全国的に大学の商学部が経営学部に変更されてきていること、高校でも国際交流が積極化していることなどの情報交換も行われました。

高校からは、課題研究に大学の知的資源を活用したいこと、観光分野など女子学生から見て魅力ある教育環境を整備して欲しいこと、経済的な理由で進学できない生徒への支援を引き続き継続して欲しいなどの要望が出され、大学としても期待に応えるよう努力することとし、閉会しました。

(総務企画課)

Topic 5

京山中学校職場体験学習

平成23年9月14日(水)から16日(金)の3日間、京山中学校2年生の3名が、本学での「職場体験学習」を行いました。3人は、図書館、入試課、キャリアセンター課へ配属されました。図書館では、「中学校とは比べ物にならないくらいたくさんの本があることに驚き、図書館を管理するのがいかに大変か思い知らされた」、入試課では、「高校生に興味を持ってもらえるように、細かいところまで気遣いをされていることが印象に残った」、キャリアセンター課では、「企業への訪問に同行させてもらい、いろいろなことを学ぶことができてよかった」、等の感想が寄せられ、将来に向けての貴重な経験となったようです。

(総務企画課)

Topic 6

大学授業体験を終えて

大学の先生方、先輩のみなさん、こんにちは! 9月30日から土日を挟んで10月3日、4日、5日、6日に貴校で授業を体験させていただきました。岡山市立岡山後楽館高等学校2年次の岡嶋北斗です。自分は大学への進学を希望しています。大学の授業風景はどんな風なのか、どのくらい専門的なのか、5日間ドキドキワクワクの連続でした。

特に、この5日間で印象に残ったのは、英語系の授業です。最初から最後まで外国人の先生が英語で授業を進められており、私は恥ずかしながらほとんど内容を理解することが出来ません

でした。しかし大学の先輩たちは内容を完全に理解しているし、流れるようにスラスラと英語でスピーチをされていたので、とてもかっこよかったです。

また、お昼休みには学生食堂を利用させていただきました。一緒に参加した友人のひとは「カレーうどんがおいしかったぜ(^_^)」と感動していました。

最後になりましたが、教務課の先生方、授業を教えてくださいました先生方、大学の先輩方、ありがとうございました。参加者を代表して御礼を申し上げます。

(岡山市立岡山後楽館高等学校2年次4組2番 岡嶋北斗)



Topic 7

第46回商大祭

第46回商大祭が10月29日・30日の2日間、開催されました。今年のテーマ「歩〜未来(みち)のはじまり〜」には、一歩ずつ前を向いて歩くことが未来につながる。そして東日本大震災で甚大な被害を受けた方々に一歩ずつ復興に向けて歩んで行ってもらいたいという思いが込められています。

模擬店やタレントトークショー(三浦春馬、南明奈)、ステージイベントのほか、東日本大震災復興支援ボランティア活動写真展など多彩な催しが展開され、例年を大きく上回る入場者があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

商大祭開催に際し、ご協力をいただきました関係者の皆様にはより感謝を申し上げます。

(大学祭実行本部 委員長 岩津未来)



Topic 8

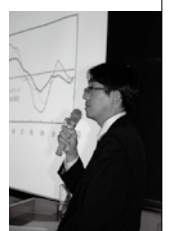
学会学術講演会

岡山商科大学学会公開講演会が2011年11月2日(水)に開催され、「世界経済の展望と地域経済の今後」というテーマで日本銀行岡山支店支店長高口博英氏からご講演をいただき、150人超の聴衆が熱心に受講しました。

世界経済は、2008年9月に発生したリーマンショック以降、世界各国は大規模な財政・金融政策を発動してきたが、2011年にはギリシャの財政問題に端を発した欧州債務問題により金融不安が増大した。当面、先進国を中心に不均衡の調整が進む一方で、新興国中心の成長が継続しています。

国内では、東日本大震災の影響や岡山県の産業構造が日本の産業構造と良く似ておりバランスが良いとされ、さらに円高、電力問題、人口問題、成長率等について明快で鋭い見解を述べられ聴衆を魅了されました。

(岡山商科大学学会)



Topic

9

建国科技大学との遠隔授業

本学の提携先である台湾・建国科技大学の応用言語学部で日本語を学ぶ学生に向け、遠隔会議システムを用いた授業を2011年11月から実施しています。



建国科技大学の先生から、普通の日本人の生活、特に衣食住についての授業を依頼されました。その背景には「学生が日本のことをもっと好きになれば、日本語学習の動機が高まる」という先生の思いがあります。そこで、初回の授業では「弁当」をテーマに、「駅弁」や「キャラ弁」の紹介から、「弁当ブログ」に投稿する主婦の心理、「弁当力」に見られる日本の伝統的価値観まで、表層的な現象から社会の深層に潜む問題まで幅広く日本文化を論じました。また、甲元先生は「岡山教育」をテーマに、御自分の三人の恩師について語ってくださいました。

文化と同時に、言葉の学習という面も意識しています。「キャラ弁」のような新語だけではありません。ダウディング先生は、実際に日本刀を見せながら「そりが合う」という表現の成り立ちを説明されました。

回を重ねるごとに、学生からの質問も増え、時には、建国科技大学の先生から日本と台湾の文化の類似点や相違点の説明を頂くこともあります。今後は、建国科技大学の先生方と協力し、学生の発表する機会を設けるなどの様々な活動を試みていこうと思っています。

(商学科 松浦美佐子)

Topic

10

トマト銀行提携記念セミナーの開催

岡山商科大学産学官連携センターでは、株式会社トマト銀行との産学連携に関する包括協定締結(平成23年6月10日)を記念して、「マーケティング・販路開拓セミナー」を平成23年11月18日(金)に開催しました。セミナーでは、岡山商科大学大学院商学研究科非常勤講師で兵庫県立大学教授の三ツ井光晴氏が登壇し、「マーケティングの視点から産学官連携を楽しむ」と題し、自らの豊富な経験に基づいた産学官連携のあり方についてご講演されました。



氏は淡路島にある「いかなごのくぎ煮」メーカーから、産業廃棄物として捨てられていた煮汁の再利用についての相談を受け、魚醤をつくるプロジェクトを立ち上げたことに触れ、産学官連携により、同じ地域の企業と消費者が感動・感激・感謝を共有する市場が創造・育成されると締めくくられました。

セミナー後半では、産学官連携センター長の大崎統一から、平成19年に産学官連携センターが発足してから活動実績についての報告がありました。

(産学官連携センター)

Topic

11

「警察と法」の開設

法学部では、2011年度より「警察と法」という講義科目を開設しました。

本学では、将来警察官や消防士となることを希望する学生が多数います。また多くの卒業生が警察官や消防士となって、活躍しております。

例えば、岡山県警には、110名以上の本学出身の警察官が、岡山市消防局には、40名近くの本学出身の消防士が在職して市民の安全を守っております。

このような現状を踏まえ、将来警察官や消防士をめざす学生にとって、役立つような講座を新設しようということで、本年度から本講座を開設することになりました。

講師には、岡山県警察署長をはじめ、岡山県警の要職を歴任された皆木英也先生にお願いしました。実務体験を踏まえて司法警察作用にとどまらず、広く治安維持と警察の果たす役割について貴重なお話をしていただいております。

また受講者からも高い評価を受けております。来年度も警察官や消防士を目指す多くの学生に受講してもらいたいと思います。

(法学部長 伊藤治彦)

Topic

12

学内に花を咲かせよう

商大校内で目につく植物といえば、4月に美しい桜色の花で覆われるサクラ、そして、校舎を縁取るように囲むマツやツゲなどの常緑樹です。



その様な木々に囲まれた校内に可憐な花が咲いていたらもっと楽しいだろうな、とある学生と職員が私に話してくれました。

このことがきっかけで、自発的に「学内に花を咲かせよう」運動が始まりました。最初に「チーム花咲かせよう」は学内の5カ所に小さな花壇を設け、スコップで掘り起こし堆肥を鋤込み土づくりに励みました。

次にチームは晩秋から春にかけて咲くスミレやパンジーなどの苗と、春に一緒に咲くチューリップの球根を選び花壇に植えました。

ささやかな花壇ですが、これまで多くの学生や教職員の足を止めさせ気分を和ませているようです。

4月頃には2つの花壇に600本のチューリップが咲き揃います。きっと、新入生の入学式の思い出の一つになってくれるでしょう。

(商学科 岸田芳朗)

Topic

13

大韓民国忠清北道教育庁 研修団受け入れ

昨年7月19日(火)～8月4日(木)までの17日間、大韓民国忠清北道教育庁からの依頼により同教育庁所属の中・高等学校日本語教諭12名

を語学研修団として、受け入れました。

研修内容は本学の通常講義を本学学生とともに受講した他、課外授業として、備前焼や茶道などを体験



していただきました。研修団は日本語能力の向上だけではなく、日本文化・風習といったものを体験したいと願われており、研修態度は非常に真剣でありました。また、自らも街に出向き日本の中・高校生からアンケートを取るなど少しでも日本を知りたいと積極的に取り組まれていました。

皆さん日本語の教諭だけあり、日本に対し、大変好意的であると感じました。

この研修を通じ、日本をより理解いただき、両国の良好な関係が保たれることを願います。

(総務企画課)

Topic

14

科学研究費補助金への取り組み

科学研究費補助金(科研費)とは、研究者の学術振興を図るため、人文・社会科学から自然科学分野まで、あらゆる分野における独創的・先駆的研究の発展を目的とする文部科学省による研究助成費です。

本学からも、毎年多数の研究者が申請を行っており、平成23年度では以下のテーマで研究費の交付を受けています。

研究種目・期間	研究課題	研究者(所属)
若手研究(B) [研究代表者] H21～24	将来事象会計基準の国際的形成に関する研究	川本和則 (経営学部・教授)
若手研究(B) [研究代表者] H21～23	組織内相互作用を通じた技術的知識の生成に関する史的解析—戦前戦中日本の電機企業	川合一央 (経営学部・講師)
基盤研究(B) [研究分担者] H21～23	自然共生型農業への転換・移行に関する研究—「成熟期有機農業」を素材として—	岸田芳朗 (経営学部・教授)
基盤研究(B) [研究分担者] H22～24	イギリスにおける実効的で効率的な「行政的正義」実現に向けた構造転換に関する研究	伊藤治彦 (法学部・教授)
基盤研究(B) [研究代表者] H22～24	調査データベース公有化における個人情報保護の統計理論	佐井至道 (経済学部・教授)
研究活動 スタート支援 [研究代表者] H22～23	日本の株式市場におけるバリュー・プレミアムに関するバズルの研究	山根明子 (経済学部・講師)
基盤研究(C) [研究代表者] H23～25	1関係性群と群環の原始性の研究	西中恒和 (経営学部・教授)
基盤研究(A) [研究分担者] H23～27	日本企業のコラボレーションとイノベーション:新製品開発のダイナミクス	川合一央 (経営学部・講師)
基盤研究(C) [研究分担者] H23～25	観光地再生のための発展モデルの構築に関する学際的研究	直井岳人 (経営学部・准教授) ※他大学へ異動

(総務企画課)

岡山商科大学附属高等学校 創立100周年記念式 式辞紹介

去る平成23年11月11日（金）に岡山商科大学附属高等学校講堂に於いて、学校法人吉備学園岡山商科大学附属高等学校創立100周年記念式が挙行されました。
同附属高校薬師寺校長の述べられた式辞をここに紹介いたします。

式 辞

津島の森は、あざやかな錦繡（きんしゅう）を纏い、秋深まるこの佳き日に、岡山県知事 石井 正弘様 岡山市長 高谷 茂男様 をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、学校法人 吉備学園 岡山商科大学附属高等学校 創立百周年の記念式典を、かくも盛大に挙行できますことは、教職員・生徒はもとより、本校関係者にとりまして無上の喜びであります。
ご列席を賜りました皆様方に心よりお礼申し上げます。
さて、本校の今日までをふり返ってみますと、我が国の資本主義経済が急速に成長する明治末期、経済・文化の豊かな岡上に、初代校長 井尻艶太先生は、地元産業振興の強い要請から、明治四十四年、岡山市広瀬町に吉備商業学校を創立されました。

設立建議には「青年をして実業方面へ向わしめる僅々三・四年の教育により既に一定の業務に服し得る、堅実な子弟を作り出す」とせば、その子弟の幸福は勿論 社会国家の上より見るもまた願う慶賀すべきに非ずや」と商業教育推進に強い決意を示されています。

その後、第一次世界大戦後の好景気に支えられ、大正時代が進みます。大正八年頃の甲種商業学校は、私立は全国で二十一校、岡山県では岡山県商業学校（今の岡山東商）、笠岡商業学校、倉敷商業学校の公立三校と私学の本校だけでした。岡山県吉備商業学校と改称し、大正十五年に財団法人を設立します。

昭和は、深刻な経済危機で幕が開きます。昭和六年都市計画により吉備商発祥の地、広瀬町を離れ現在地となる北方孤の口に移転します。

大変な不景気が続く中、昭和七年吉備商業練習所を開設、学業修得だけでなく、社会の変化に対応した実務重視の教育を行います。翌年、株式会社喜多屋を開業、即戦力の経済人育成を目指した実践的な教育が展開されます。

やがて戦時下の非常時局、商業学校危機の時代を迎えます。昭和十九年工業学校への転換を勧められますが、工業科を並置して岡山県吉備商工学校と改称、直ちに実習工場を建設、工業教育が始まります。就職率は百パーセントで志望者が激増、実習風景は、火の玉のごとき熱と意気に燃え、灼熱の火花を散らし、勇ましくハンマーを振り、物づくり職人魂を鍛えた、とあります。

昭和二十年六月二十九日、空襲で校舎を焼失、勉強どころではない悲しい事態の中で終戦を迎えます。敗戦のショックと混乱が続く中で、価値観を大きく転換させながら、焼け残った実習工場を区切り授業が再開されます。やがて念願の大講堂や鉄筋校舎が完成、理科教室や図書館も建設、校舎が復興します。

第二代 井尻裕校長は、「半田山の翠峰は一望の内にあり、西方には、吉備の野を隔てて万成山が眺められる。岡山駅から至便の地に新校舎を再建するのは県下の白眉である。」と校舎完成の喜びを残しています。

昭和二十三年四月、学制改革により吉備高等学校と改称、岡山県吉備中学校を併設。翌年普通科を新設、昭和二十五年十二月、私立学校法に基づき学校法人吉備学園に改組します。

昭和三十八年中学校を廃止、昭和三十年同校地に開設した吉備商科短期大学は、昭和四十年岡山商科大学に昇格して岡山市津島に移転します。

やがて日本経済は高度成長期に入り、生徒急増期を迎えます。昭和三十七年、その時代に相応しい堅実な発展を期して自動車科を新設、近代的な産業教育の施設・設備を拡充し、私学伝統校として名実共に発展を続けます。

高学歴志向が強まる中で、本校は生徒数が減少、産業教育を柱とする本校教育の模索が始まります。昭和四十八年に、設備工業科を増設、大学進学志向が一層強まり、平成六年普通科に特別進学と総合進学コースを開設、男女共学に設備工業科は設備システム科に、平成十四年に設備システム科を環境システム科に改編して、校名を現在の岡山商科大学附属高等学校とします。

平成十六年からは総合学科に学科改編、平成十八年人工芝グラウンド完成、平成二十一年からは、三系列八コースを持つ県内唯一の私学総合学科高校として、伝統のキャリア教育を軸に進学教育を強化、成果を上げて現在に至っています。

本校のこれまでの道のりは、決して平坦とは言えません。幾多の試練や困難に遭遇、課題を克服、常に社会の要請に応え、専門性の高い有為な人材育成を図ってきました。こうして育った卒業生は二万一千五百人を超え、それぞれが、各界・各分野で活躍しています。

校祖となる井尻艶太校長は、これ以上はできないくらい精一杯の努力をすれば、ここぞというときに大きな力を発揮する「一心不乱」の心構えを説かれています。こうした、初代校長の信条、一心不乱 報恩感謝 早出晩退を生徒心得に、第二代校長の、忍耐し努力せよ 個性を磨き我が道を行く。を校訓に定めています。

こうした建学の精神を礎に、挨拶のできる学校、清掃の行き届いた美しい学校、身だしなみの整った清楚な学校を目指し、新しい校風確立に邁進しています。

二十一世紀の今日、本校百年の教育が果たした意義には大きいものがあります。本日を機に、改めて本校の現在を見つめるとともに、先輩諸氏が営々と築き上げられた輝かしい歴史と伝統に思いを致し、改めて本校の果たすべき役割を問い直し、さらに光り輝く学校となるよう、新たな一歩を踏み出す覚悟でございます。

また、記念式典に立ち会うことのできた生徒諸君には、本日の感激を深く胸に刻むとともに、本校の輝かしい伝統を引き継ぎ、さらに発展させる責務があります。

校章は、豊かな岡山を象徴的に表現する吉備を母体とし、学校法人吉備学園グループの大きな学びの場に守られて、岡山商科大学附属高校の充実した教育を表しています。

本校の総合学科教育をととして、各コースの特色ある科目を選択、意欲的に学び、それぞれの専門性を培い、夢に向かって個性を磨き、自己実現を図るようお願いいたします。

終わりに、ご多忙のなか、本日ご臨席賜りました皆様方に心からお礼を申し上げるとともに、今後とも本校教育への一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。本校創立百周年記念式典の式辞といたします。

平成二十三年十一月十一日

学校法人 吉備学園 岡山商科大学附属高等学校

校長 薬師寺 茂

作家の視点

江戸川乱歩賞作家 石井敏弘
本学非常勤講師（第十七期商学部卒）

平田信容疑者が、十七年近い逃亡生活の果てに、警察に出頭。

十七年という歳月は、オウム事件をある程度風化させてしまうほどの長い時間だったのでしょうか。そのことは平田容疑者が警察に出頭した時、最初に対応した警官がいたずらと判断したことからも明らかです。

日本人というのは、どのような巨大な犯罪や災害でさえ、うまく忘れてしまう才能を持っているのかも知れません。もちろんこれは事件の当事者や被害者、その遺族、また逃亡していた容疑者本人にとっては、「風化」などあり得ないことだと思われまふ。そしてまた、忘れてはならないとも思います。

しかし、非常に大局的に見た場合、日本人は「忘れる名人」なのかも知れません。

たとえば太平洋戦争。多くの同胞の命を奪われ（それは双方に言えるのですが）、原爆という非道な兵器まで使用された日本人は、もっともつとアメリカ合衆国という国を憎んでもおかしくはなかった。しかし、戦後、異常なほど日本人は「アメリカ大好き民族」になってしまった（個人はともかく、大勢は）。

過去の恩讐など、きれいに水に流してしまっているように見えます。

歴史的に見ても、日本という国は火山や地震による自然災害による甚大なダメージを受け続けてきました。そして人々はそのたびに嘆きや悲しみの中から立ち上がってきた。こういった出来事への一種の慣れと、忘却することでの強さみたいなものを、日本人はこの国の風土の中に生きる内に、身につけてきてしまったのかも知れません。

忘れてはならない犯罪や災害がある一方で、私はここ数ヶ月の流れの中に、日本人の強さみたいなものも見ています。とはいえ、その長所は同時に短所でもあるのですが。

Asia Report アジアレポート

孔子学院便り

●小学生中国文化体験講座

2011年11月1日、地元小学校の要請を受けて、中国文化体験講座を行った。中国の文化や歴史の紹介及び「ハンカチ落とし」、「蹴跳ね」を小学生に体験してもらった。約130名の児童が講座に参加した。



●水餃子教室

2011年11月12日、岡山市福祉交流プラザ富原の要請を受けて、中国手作り水餃子教室を開催した。餃子の皮の伸ばし方、具の作り方、餃子の包み方など、孔子学院教師は丁寧に参加者に説明し、水餃子作りを体験してもらった。そのほか、簡単な中国語あいさつ教室も行われた。近隣地域から10余名の家庭主婦が教室に参加した。



●伝統芸術鑑賞会

2011年11月11日、中国文化の普及を市民に図る事を目的として「伝統芸術鑑賞会」を開催した。大連外国語学院大学民族楽団の教師及び学生による二胡、古箏、琵琶の重奏や独奏、中国民謡などが披露され、約200名の参加者があった。そのほか、二胡と琵琶の演奏者はRSKラジオ「商大孔子学院」コーナーにも出演し、電波を通して8万余りのリスナーに中国民族楽器の名曲を届けた。



●春節交流会

2012年1月21日、中国の年中行事である春節を中国語講座受講生や地域住民に体験してもらうため、「春節交流会」を開催した。交流会に先立って、南部稔学院長は「世界経済の低迷と中国経済の実力」と題して講演を行った。その後、参加者は孔子学院の教師や留学生達と共に餃子作りを行い、孔子学院受講者による二胡の演奏や中国人留学生による中国語の合唱を楽しみながら歓談し、盛んな交流が行われた。中国語講座受講生、地域住民と留学生を併せて約80名の参加者があった。



「日本事情」課外授業「後樂園」と「岡山城」の見学

11月12日(土)暖かい晴天の朝、5人の先生と共に私達「日本事情」受講生45人は学園バスで後樂園へ向かいました。赤と青のグループに分かれて早速、後樂園のボランティアの方の案内で日本庭園の見学が始まりました。

正門を抜けると、突如目の前に広い芝生と池の空間が私達を迎えてくれました。中ほどの築山とたくさんの樹と空が調和して別世界のような感じでした。とても都市の中にある庭園とは思えませんでした。庭園の歴史は、中国から始まったと言われますが、後樂園は300年間手を掛けただけに韓国や中国の庭園とはぜんぜん違う感じです。特に隅々まできっちり整備され、きれいに手入れされて日本庭園の素晴らしさに感動しました。そしてとても印象を受けたことは、後樂園の名前の



由来です。『先憂後楽』の精神の通り、庶民の幸せを思う城主の気持ちには大変感心しました。

後樂園の見学の後、橋を渡って岡山城へ向かいました。岡山城は戦国時代の軍事要塞です。城の至る所までお城の専門家の方の詳しい説明案内で、昔の城主や武士の

生活ぶりを知ることができ、当時の生活設備の天然かまど、石の冷蔵庫、流しなども見られました。天守閣では、中に展示されている刀、着物、和室などから昔の日本の生活様式と日本の歴史、文化も理解できました。



見学授業が終わった翌々週の授業で、先生が後樂園のボランティアの方から届いた手紙を紹介してくれました。後樂園が日本三名園の一つであること、郭沫若とタンチョウ鶴のこと、当日の天気良かったので後樂園が一層明るくて広々としていたことが書かれていました。その手紙のお陰で後樂園の美しい風景がより良い思い出として、また私たち留学生に親切に説明案内していただいた岡山の人達にありがとうという感謝の気持ちでいっぱいです。

半日は短かったですが、美しい後樂園と立派な岡山城を目で見て、手で触ったりして良い体験をしました。チャンスをこしらえて、もう一度いきたいです。

(経営学科3年生 連迂遠 崔イエナ 黄乃玲)

キャリアセンター便り

留学生が就職活動開始にあたり思うこと 「失敗から学んだこと」

失敗し、その失敗を反省し、そこから様々なことを学び、そして同じ過ちを二度としないようにします。失敗とは、人生の中で貴重な経験だと私は思います。中には、失敗を嫌い、失敗することから一生懸命逃げようとする人もいるでしょう。しかし、私は失敗から逃げず、正面から向かい合うことが大切だと思います。失敗の原因を真剣に探し、間違いを直す。それは、成功に近づくための確かな一歩だと思います。

日本に来て、初めてアルバイトをしました。昨年、小学生に英語を教えるアルバイトの面接を受けました。小学生に教えるような初歩の英語なら、単語も文法も発音も、何でも簡単に教えられと思い、面接の前に、十分な準備をしておきませんでした。面接のとき、先生三人が座っているのを見ると、緊張感に襲われました。質問された時も、準備していなかったので、あまりよく答えられませんでした。結局、講師として採用されることはありませんでした。

この失敗から学んだことは、自分の能力を過信せず、しっかりと準備することの重要性です。

そして、今、改めてその時の失敗を振り返った時、もう一つ大切なことを学んだような気がします。それは些細な失敗でも軽視せず、しっかりと反省することです。

この失敗は人生観を変えるような大きな失敗だとは言えませんが、私たちが普段遭遇する失敗は、そうした大きな失敗ではなく、今回のアルバイト面接の失敗のような些細なものが多いのではないのでしょうか。小さな失敗でも見過ごすことなく、その都度しっかりと反省し、同じような過ちを繰り返さないようにする。その積み重ねが成功に繋がるのであり、また人間として私を一回りも二回りも成長させてくれるのだと、私は信じています。

これから就職活動するため、いろいろな面接を受けて、様々な失敗をしていくでしょう。しかし、それらがどんなに些細な失敗であっても、「私はそこから少しでも何かを学ぶよう意識して生きていかなければならない」とそう強く感じています。

(経済学部経済学科 3年 蔣文字)



本学の学生も、12月から岡山をはじめ各地で開催されている合同企業説明会等に参加をして、社会へ出るための準備を重ねています。様々な企業や業界を研究、また自分の目で見て、「この会社なら自分の一生を預けられる」という企業に出会い、来年の春には一回り成長し、一社会人として、商大OBとして一歩を踏み出せる事を願ってやみません。

地学地就バスツアー開催

2012年1月13日(金)、文部科学省・学生支援推進プログラム(テーマB)「地学地就の理念に基づいたキャリア教育と就職支援の強化」の取組の一環として、今年度2回目となる「地学地就バスツアー」を開催しました。

「地学地就」とは「地元で学んで、地元で活躍する」という理念に基づいたものです。

当日は36名の学生の参加のもと、本学の大型バスを使用し、午前中は、笠岡市に本社を置き、自動車部品を製造しているヒルタ工業株式会社を訪問し、30分弱の会社紹介及び業務内容等のビデオを見た後、本社敷地内にある工場を見学、質疑応答がありました。



午後は同市の「笠岡総合体育館」にて開催された「おかやま・ひろしま企業魅力発信合同企業説明会」に参加をしました。岡山県及び広島県に本社を置く99社がブースを出展し、採用とは関係なく、ブースに来場した学生に企業の事業内容や勤務内容等を説明するものです。

本学学生も積極的に各企業のブースを訪問し、質問等をしていました。

今後も、学生の意向を汲みながら、「地学地就」の理念に基づいたバスツアーを開催していきたいと思います。

学内合同企業説明会開催

2月2日(木)、3日(金)の2日間、2013年3月卒業生(現3年生)を対象とした「学内合同企業説明会」を開催しました。企業は2日が72社、3日は70社の参加がありました。学生も両日併せてのべ330名の参加があり、盛況に終わりました。名称からも分かるように、本学学生のみを対象とした説明会であり、「商大の学生を見てみたい、採用をしたい」との意向を持っている企業が参加されていますので、本学学生にとっては内定を得る一番の近道であり、最大のチャンスでもあります。学生はこれを機会に、様々な企業と出会い、内定に繋げる事が出来れば幸いです。



2013年春卒業生就職戦線スタート!

2013年3月卒業生(現3年生)の就職活動が2012年12月よりスタートしました。

日本経団連の「新規卒卒者の採用選考に関する企業の倫理憲章」により、採用情報を公開する「解禁日」が例年の10月から12月に変更され、初めての年となります。

12月1日には就職情報サイト等に一齐に採用情報が掲載されるとともに、早い企業では同時に説明会等のセミナー予約受付が行われています。日本経済や世界経済の先行きが見通せず、企業に「年齢構成」「欠員者の補充」等の観点から採用の意思はあるものの、「採用人数の目安は決めているが、人数にこだわらない。良い学生がいれば採用するが、水準にあわない学生は採用しない。極端に言えばゼロでもよい」というスタンスの会社が多く、就職活動をする学生には元気さ、積極性だけでなく、一般常識や社会常識等を含めた「総合的なレベル」が必要とされます。

叙勲

平成23年度秋の叙勲において、本学園常勤理事の土井宏輔氏が受章されました。

心からお喜びを申し上げます。

《瑞宝双光章》

学校法人吉備学園 常勤理事

土井 宏輔



学位記授与式・入学式のご案内

学位記授与式	2012年3月22日(木)	10時30分～
入学式	2012年4月 3日(火)	10時30分～

人事異動

種別	役職等	氏名	所属	日付
退職	准教授	直井岳人	経営学部	9月30日
	教授	安宅敬祐	法学部	10月17日
	事務職員	張 在基	学生課	12月31日
採用	嘱託職員	湯 文	総務企画課	10月 1日
	嘱託職員	李 敬	図書課	
異動	課長補佐	奥田寿生	会計課	
	主 任	中村 裕	総務企画課 (産学官連携センター兼務)	
	主 任	時耕邦宏	法人事務局	
	主 任	橋本真記	産学官連携センター	
	主 任	村岡 崇	キャリアセンター	
	事務職員	面手昌樹	教務課(学生課兼務)	

卒業記念パーティー案内

今年度も卒業式終了後に、卒業記念パーティーを下記のとおり開催致します。

当日は、軽食を用意し、豪華賞品が当たる抽選会も予定しています。

卒業生の方はもちろん、教職員の方々も皆様おさそい合わせの上、是非ご出席ください。

■日時：平成24年3月22日(木)

12時30分・・・受付開始

13時00分・・・開宴

14時30分・・・閉宴

■場所：岡山商科大学 学生会館1階 食堂

■会費：無料

日本拳法岡山県連盟設立35周年・岡山商科大学日本拳法部創部30周年にあたって

平成23年度は、日本拳法岡山県連盟創立35周年、本学日本拳法部創立30周年を迎えることができました。

特に日本拳法岡山県連盟専務理事、岡山商科大学日本拳法部監督国塩幸平氏のご尽力、ご努力には深く感謝申し上げます。国塩監督の下、本学に入学した経験の少ない部員をご指導頂き、平成20年には全国8位の成績を残すなど、立派な部に成長させて頂きました。卒業生の多くは卒業後も何らかの形で日本拳法に関係して、毎年開催される日本拳法岡山県総合選手権大会では、世話役として顔を合わせることができ、歴史の流れを感じさせてくれます。

また、日本拳法岡山県連盟を中心に拳会(こぶしかい)が結成され、中島博会長を中心にして、本学の活動に多大なご支援を頂いていることにつきましても感謝申し上げます。

柔道、ダンス等が義務教育に必須科目として義務づけられる昨今の現状に鑑み、日本拳法もその一翼を担える裾野を広げるためにも、本学の日本拳法部は国塩監督の下に更なる発展の余地を持っていると考えております。日本拳法は「心」「技」「体」を日頃の練習の中で鍛え、苦難に立ち向かえる強い心を養うことが出来ますので、学生の皆さんには是非参加されることを期待しています。

(岡山商科大学日本拳法部 顧問 大崎紘一)

台湾・建国科技大学留学報告

(2011年8月27日～2012年1月27日)

私は今回の留学で、大学は時代の先端を行く組織であると感じました。常に新しい視野を持った若い芽が入



れ替わり入学し、学問を追及して来るからです。留学先の学部では、学生は外国人留学生と交流し様々な文化の違いを独自の視野で積極的に追求していました。しかし、私はその留学期間の中で一番大切だと思った事は「信頼」でした。外国語に乏しい者同士伝える事に夢中で、実際は充分に伝わっていないこともありました。その不足部分に、互いの悩みを共有し解決した結果生まれる「信頼」が補ってくれました。自身の主張を相手に通したければ、相手の主張にまず耳を傾け、その主張に内在する問題を共有し解決していく。そうすれば、自身の主張が受け入れられやすくなります。自分の主張を通したければ、まずは互いの信頼を共有する。これは決して授業では学べないものであり、異文化交流の先端と感じました。また、大学もこれらに対応するため常に古い考えを刷新していくべきだと感じました。

(法学部法学科4年 上田裕貴)

岡山オルガノン3年間のまとめについて

本学としての活動

(1)岡山商科大学オフィス会議の設置

岡山オルガノン実施組織として、平成21年度にオフィス会議を設置した。構成は、オフィス所属の室長大崎純一、コーディネーター矢延里織、事務補佐員荒木智子(平成22年3月31日迄)、長内路子(現在)の3名に、双方向コンテンツ委員会委員の経営学部教授小松原実、本学の事務担当として、産学官連携センター主任中村裕の2名の計5名であった。平成21年度は17回の会議を開催し、導入機器に関する検討および委員会シンポジウム開催に関する検討、ライブ型遠隔科目の準備作業を行った。

平成22、23年度は、上記に加え、地域活性化委員会委員として、経済学部教授多田憲一郎、遠隔講義を実施するために、教育学部佐賀千恵、面手昌樹、大学コンソーシアム岡山事務局板野涼子の4名が参加した。平成22年度は39回、平成23年度は15回の会議を開催し、「遠隔講義の担当者の決定」、「遠隔講義の開講と配信テストの実施」、「地域活性化シンポジウム」、「エコナイト」、「遠隔授業とFD-SDに関するシンポジウム」開催等に関する検討・実施を行った。

(2)テレビ会議システム等の設置、遠隔講義の検討、提供科目について

双方向ライブ型遠隔科目の配信や遠隔会議に使用するシステムは、771、772教室に設置し、必要に応じ各教室を活用した。VOD用PCは772教室に設置し可動型のラックを導入した。VOD型遠隔科目の受講場所は771教室または社会総合研究所とし無線LANを整備した(写真1)。

システムの業者選定後、デモ機を借用し、機器動作と通信の検証を行い、操作説明会を連携校に個別に実施した。またVOD用PCを利用して同講義の履修生がまとめてオンラインで提出できるよう小松原が専用サイトを作成した。

双方向ライブ型遠隔科目の配信においては、OHC等の周辺機器も使用して配信できるよう環境を整えた(写真2)。著作権上、受信大学では講義を録画しないこととし、補講等に備えて科目を録画するカメラとSDカードから直接再生するPCを本学に導入した。以上のような利用方法を基本構成とし可能な限り連携校で統一することを双方向コンテンツ委員会で説明し、連携校全体が効率のよい遠隔講義を実施できるようインフラ整備に取り組んだ。



写真1. 他大学のVOD科目を履修する本学の学生



写真2. テレビ会議システム設置教室(772教室)

本学から提供する遠隔講義は、双方向ライブ型遠隔科目として平成22年度、23年度に「経営学特殊講義Ⅱ」(コーディネーター:経営学部教授 大崎純一)、平成23年度後期に本学から提供したVOD型遠隔科目は、「パーソナルファイナンス:金融資産運用・不動産Ⅰ」(経営学部准教授 高林宏一)である。これらの科目は、平成24年度も遠隔科目として提供される。

(3)「日ようび子ども大学」-大学連携による子ども参画型ブース展示と発表-

地域における子供に関する取り組みを行っている大学が多いことから、「子供」と

「大学連携」をテーマとして、平成23年6月26日(日)に「大学連携による地域活性化シンポジウム」の第2分科会「日ようび子ども大学」を本学会場で開催した(写真3)。連携校8大学による幼児・児童教育の実践研究に関するイベントと「欲しいものや必要なもの」の違いを見つけて手に入れられるかな?」(経営学部准教授高林宏一)のイベント(写真4)を実施し、全体で508名が参加した。幼児・児童教育に資することが大きかったと共に、連携校だけではなく地域一体となった取り組みの必要性について確認することができた。



写真3. 会場が参加者でにぎわう様子



写真4. 本学展示ブース

(4)環境教育実践活動

「エコナイト」-「がんばろう日本」のための「エコ活動」-

平成23年7月7日(木)を中心に開催した「エコナイト」は、15大学で定足をそろえて省エネについて考える環境教育の実践的活動であり、連携校全体で約1,500名が参加した。主な実施内容は次のとおりである。

①岡山県との連携活動

省エネ活動として、5月中旬以降各大学でクールビズを実施、冷房を28℃に設定するなど節電活動を9月下旬まで行った。また、当日はライトダウンとして午後8時にライトダウンを行った。さらにマイカー通勤の自粛を行った。

②岡山市との連携による「東日本応援およびエコイベント」

東日本復興応援活動を本学の他3大学が合同で実施し、学生教職員92名と一般市民約20名の約110名が参加し、東北地方をハートでマークした日本地図作成を行った(写真5)。またエコうちわに市民の方々からの応援メッセージを記入したものを東北へ送付し、石巻市でうちわを使用した方からお礼のものが送られてきた(写真6)。



写真5. 東日本応援活動 日本地図作成



写真6. 東北へ送付したうちわと石巻市から届いたお礼状

③エコキャンドルの作製見学

6月22日(水)にキャンドル・ロウソクの開発、製造、販売を行っているベガサスキャンドル(株)に本学の他3大学の学生29名が訪問し、エコ教育の一環として廃食油からキャンドルを作製する過程を見学した。

慶應MCC タ学サテライト 2012年度前期 開催予定

全15講演を配信予定のうち、2012年2月23日現在決定しております。2012年度前期のタ学サテライト予定です。＜＞は「タ学五十講」2012年度前期のテーマです。

- 開催時間 18:30~20:30
- 会場 岡山商科大学/781教室
- 受講料 1,200円
パスポート券(15回共通) 10,000円

4月11日(水) <気鋭の論客に聞く>

藤原 和博(ふじはら かずひろ)
東京学芸大学 客員教授、杉並区立和田中学校・前校長
「坂の上の坂をどう生きるのか」

4月12日(木) <成熟社会の経営とは>

原田 泳幸(はらだ えいこう)
日本マクドナルドホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長兼CEO
「マクドナルドの経営改革」

4月17日(火) <気鋭の論客に聞く>

内田 樹(うちだ たつろ)
神戸女学院大学 名誉教授、凱風館 館長
「混沌に立ち向かうということ」

4月26日(木) <人を育てる、人とつながる、人から学ぶ>

西村 佳哲(にしむら よしあき)
リビングワールド代表、働き方研究家
「かかわり方のまなび方」

5月14日(月) <日本の文化力>

釈 徹宗(しゃく てっしゅう)
浄土真宗本願寺派 如来寺第19世住職、相愛大学人文学部 教授
「日本人と仏教~日常に潜む仏教文化~」

5月17日(木) <クリエイティブマインド&メソッド>

原 研哉(はら けんや)
デザイナー、武蔵野美術大学 教授
「HOUSE VISION-産業の未来を可視化するデザイン」

5月25日(金) <気鋭の論客に聞く>

中野 剛志(なかの たけし)
京都大学大学院工学研究科 准教授
「異端の思想 経済ナショナリズムとは何か」

6月6日(水) <成熟社会の経営とは>

おちまさ
プロデューサー
「企画を生む「気づく」技術」塾」

6月8日(金) <TOPICS 2012>

成毛 眞(なるけ まこと)
HONZ代表、株式会社インスパイア 取締役ファウンダー
「現代の常識を疑う」

6月14日(木) <成熟社会の経営とは>

金井 壽宏(かない としひろ)
神戸大学大学院経営学研究科 教授
「個人が変わる、集団が変わる、組織が変わる ~アクション・リサーチ、組織開発、組織エスノグラフィー~」

6月18日(月) <人を育てる、人とつながる、人から学ぶ>

石川 勝美(いしかわ かつみ)
埼玉縣信用金庫 法人事業部推進役(石川遼選手の父親)
「石川遼はこんな環境で育った」

6月21日(木) <成熟社会の経営とは>

加護野 忠男(かごの ただお) 甲南大学 特別客員教授
大森 信(おおもり しん) 日本大学経済学部 准教授
「トイレ掃除で会社が変わるのか~掃除、5Sを考える~」
※各45分の講演と質疑応答30分の構成です。

7月20日(金) <人を育てる、人とつながる、人から学ぶ>

妹尾 大(せのお だい)
東京工業大学大学院社会理工学研究科 准教授
「知をつなぐデザインとリーダーシップ」

7月24日(火) <成熟社会の経営とは>

松波 晴人(まつなみ はるひと)
大阪府行動観察研究所 所長
「行動観察のビジネスへの応用(付加価値提案と生産性向上)」

7月26日(木) <日本の文化力>

横 文彦(まさ ふみひこ)
建築家
「グローバル化の中での建築デザインを考える ~最近のプロジェクトを通して~」

■お申込み・お問合せ先

●岡山商科大学社会総合研究所
TEL&FAX 086-256-6656